

しんぶん赤旗 2019年11月21日(木)

松本県政必ず誕生へ 5野党代表が連名で檄 24日投票の高知知事選

24日投票の高知知事選で、野党統一の松本けんじ候補の勝利をめざす選対本部長の広田一衆院議員と副本部長を務める立憲民主党、国民民主党、日本共産党、社民党、新社会党の5野党の県代表は20日、連名の檄(げき)を発表しました。

檄は「残り4日、すべてのみなさんが燃えに燃え、奮い立ち、圧倒的な大宣伝と対話・支持拡大に総決起」するよう呼びかけ、「参院選を思い起こしてほしい。『あと2日あったら』『あと1週間あったら』というあの悔し涙は、もう流したくありません」と指摘。「全国注目のこの選挙、投票箱の蓋(ふた)が閉まるまでの猛奮闘で、松本知事を誕生させることをとおして、みんなが動けば『政治を、暮らしを変えることができる』という結果をつくりましょう。そして、政治を国民の手に取り戻す壮大な流れを、この高知からつくっていこう」と訴えています。

しんぶん赤旗 2019年11月21日(木)

達増岩手県知事 応援メッセージ 24日投票の高知知事選

大激戦となっている24日投票の高知知事選で、野党統一の松本けんじ候補の元に、9月の岩手県知事選で野党共闘で勝利した達増(たっぞ) 拓也知事から応援メッセージが届きました。19日付。メッセージの全文を紹介します。

◇

いま、地方自治に必要なのは、常に県民目線で物事を見ることができる「感性」だと思います。

県民にしっかりと寄り添い、ともに答えをみつけ、だれ一人取り残さない県政、そうした温かい県政を目指して、ぜひ頑張ってくださいと思います。心から期待しています。

しんぶん赤旗 2019年11月20日(水)

高知知事選 激戦 松本候補勝利必ず 野党国会議員が連日支援

高知県知事選(24日投票)で、自民・公明丸抱えの天下り官僚候補を激しく追い上げている野党統一の松本けんじ候補の勝利のため、立憲民主党、国民民主党、日本共産党など各野党・会派の多数の国会議員らが連日、各地の宣伝や街頭演説、個人演説会などに駆け付け、支持を訴えています。

野党各党・会派の代表らでは、16日に国民民主党の玉木雄一郎代表が土佐市、17日に日本共産党の志位和夫委員長が高知市と香美市、18日に社会保障を立て直す国民会議の野田佳彦代表が高知市、19日に岡田克也元副総理が本山町に入りました。21日には立憲民主党の枝野幸男代表と志位氏が高知市で訴えます。

18日には11人の国会議員が高知入り。7日の告示以降、19日までに延べ40人以上の現職・前職・元職の国会議員が来高しています。

しんぶん赤旗 2019年11月20日(水)

高知知事選(24日投票) 論戦で対決点鮮明

自公丸抱えの天下り官僚候補を野党統一の松本けんじ候補が猛追している高知県知事選(24日投票)の対決点が、論戦の中でいよいよ鮮明になっています。



(写真) 握手に駆け寄り、支持を訴える

松本けんじ知事候補=16日、高知県土佐市

教育問題

松本候補 県版テストやめ先生増

自公候補 テスト継続押し通す

松本候補は、「高知のことは高知で決める。ここでいっしょに生きよう。だれ一人取り残さない県政」へと呼びかけ、大きな共感を広げています。

この中で県政の大事な争点の一つとなっているのが教育問題です。

現在の尾崎正直知事が安倍政権直結で進めてきた政治の中で一番悪いものが、子どもたちを「学力テスト」偏重の教育に追い込んだことです。

毎年テスト漬け

高知では、小学校6年生、中学校3年生の全国学力テストに加えて、中学校1年生、2年生でも県版学力テストを行っているため、子どもたちは、小6から中3まで毎年テスト漬けになっています。

授業そっちのけで「過去問」をやらせる例も。教員がテスト対策で疲弊し、一番大切な子どもたちに向き合う時間がなくなっています。そもそも高知では教員定数通りの正職員の配置もできておらず、県独自の少人数学級もこの10年間前進していません。

松本候補は、「テストの点数対策に追われる教育ではなく、子どもたちの疑問や知りたい思いに寄り添える時間的人員余剰のある学校現場づくりをすすめる」と公約。教員を増やし、県版学力テストをやめ先生が子どもに向き合えるようにすることを掲げています。

ところが、自公推薦の官僚候補・浜田省司氏は県版学力テストの弊害をまったく認識せず「やめる理由は全然ない」と述べています。

不登校全国2位

一方では個人演説会で、「私自身もこの2カ月間、県内各地でお話を聞いて、本当に不登校などにお悩みの家庭が増えていると実感している」と述べ、わざわざ松本氏の「だれ一人取り残さない県政」というフレーズを引用しながら、こうした子どもたちへの支援強化に言及せざるをえなくなっています。

事実、高知県内の小中学校の不登校の児童生徒数は、2013年度の802人から18年度の1059人へと急増。1000人

当たりの人数20・9人は全国で2番目に多くなっています。

松本氏は「学校に居場所を持たない子どもたちがいる理由の一つには、すべてテストの点数ではかられる学校現場がある」と指摘。だからこそ「県版テストをやめて、その予算で学校の先生を増やして、先生がちゃんと子どものそばにいられる学校をつくっていきたい」と訴えています。

医療・福祉

松本候補 国保の子ども均等割廃止

自公候補 大幅値上げが“実績”



(写真) 松本候補

を応援する野党共同街宣で訴えを聞く人たち＝16日、高知市
この選挙でもう一つ議論になっているのが、「行政経験」です。

総務省や府県で幹部職を歴任してきた浜田氏は、自ら「実直な地方行政のプロというのが私の売りだ」と売り込み、「行政経験」がない人には「安心して県政を任すことができない」などと松本氏を攻撃しています。

しかし、浜田氏がどんな「行政経験」を積んできたのでしょうか。

カジノ誘致推進

大阪府副知事時代には、大阪維新の会の府知事のもとで、ギャンブル依存症を増やすカジノを推進。国民健康保険料の大幅値上げを押し付けてきたのが実態です。

総務省官僚時代も自治体病院の民営化や廃止・統合などを促してきました。

事実を知った県民からは、暮らしや福祉を、上から切り捨ててきた「行政経験」など「願ひ下げだ」との声が起きています。

高知新聞社などが15～17日に行った世論調査によると県民が新しい知事に望む資質のトップは「県民の声をよく聞く人」(37・9%)、最も力を入れてほしい政策は「医療・福祉」(24・2%)がトップです。

時給千円以上を

現場の声で練り上げてきた松本氏の政策は、県内労働者の20%を占める福祉・医療・介護分野の処遇改善、中小企業支援を抜本的に強め時給千円以上を促す、農林漁業への抜本的な支援—などいずれも県民の切実な要求に根差したものです。

とりわけ、「社会保障を充実させることは、高知県で暮らし続けられる大事な条件」だとして、国からの押し付けによる公的病院の再編縮小計画には、反対を貫くと明記。国保については、赤ちゃんが1人生まれるたびに国保料が跳ね上がる子どもの均等割の廃止を掲げています。

対国政

松本候補 国の悪政にもの申す

自公候補 国いいなり天下り官僚

今回の知事選では、国政との関係も問われています。

浜田陣営は、高知県の自主財源は3割だとして「必要なのは、国との信頼関係だ」と強調。松本氏が勝つと「取り返しのつかないことになる」(桑名龍吾県会議長)などと脅しています。浜田氏自身も「国が悪かったからと言ってしまうと何も生まれない」などと主張しています。

そんな国いいなりの天下り官僚政治でいいのかが問われています。

松本氏は、人口減など県が抱える問題の根っこには国の政治があると指摘。農業破壊や消費税増税など「国の政治に対しても、おかしいことはおかしいと言う県政でないと県民の暮らしと命は守れない」と表明しています。

これまでの県政のよいところを伸ばし、県政に足りなかった医療・福祉に力を入れ、暮らしを支えることで人口減に歯止めをかけたいと強調。同時に「全国注目のこの選挙での勝利こそ問題の根っこにある国の政治を変えていく巨大な一歩になる」と訴えています。

しんぶん赤旗2019年11月21日(木)

高知県知事選24日投票 青年、連日の宣伝・発信 “松本さんと政治変える”



(写真) 街頭で対

話する青年たち＝19日、高知市

大激戦の高知県知事選(24日投票)で野党統一の松本けんじ候補(35)と一緒に政治を変えようと、青年サポーターらでつくる「マツケン.come」が連日宣伝やSNSでの発信などで支持を広げています。教育政策などへの切実な願いも続々と寄せられています。

メンバーは、高知市の繁華街で連日宣伝。7日の告示以降、450人以上と対話しています。

「だれ一人取り残さない教育を」と訴える松本候補の教育政策に共感が広がっています。投票に「行くかどうか迷っている」という18歳の女子高校生の2人連れは、県版の学力テストを廃止するという松本候補の政策を知り、「本当にテストが多過ぎ。松本さんに入れます」とビラを受け取りました。子どもからも「学テを廃止してほしい」の声が続出。教員とも対話になり、「変形労働時間制は困る。県版の学テを含め、テストの負担が大きい。変えない」と期待が寄せられました。

「マツケン.come」メンバーで松本候補と同世代の教員は、教員仲間十数人に「LINE(ライン)」で「松本候補に声を届けてほしい」と呼びかけました。すると深刻な実態が相次いで返ってきました。

ある教員は、県版学力テストに執念を燃やす管理職について「学テの結果がよかった先生を連れてごはんをごちそうし、結果

が悪かった先生は人格否定も含めて非難している」と告発しました。

別の教員も「平均点以下なら指導主任が見に来る。過去問をやるので点数は上がるが、本来の学力向上にはならない」「慢性的な教員不足で生徒の話を聞いてあげられない」と訴えました。

メンバーの教員は「思った以上に多くの熱い声が集まった。生徒のための教育をしたい。自分たちの声を聞いてくれる人がトップに立ったら、本気で教育が変わると思う。ワクワクします」と語ります。

寄せられた声は松本候補に届け、演説やSNSで紹介されています。

「マツケン. come」のメンバーも、街頭で寄せられた声をツイッターなどで紹介。イラストが得意なメンバーは漫画を描き松本候補の政策を発信しています。

メンバーの大学2年生(20)は先輩などに「マツケンさんを応援している」と語っています。「決めていない」という人にも、学テ廃止などの政策を紹介すると、よく聞いてくれると言います。「話を聞くと切実な思いが分かるし、その声はマツケンさんの政策につながるものが多い。支持を広げていきたい」と話しています。

高知新聞 2019. 11. 21 08:29

2019高知県知事選【来援支援】「安倍内閣は瀕死状態」小沢一郎氏強調

国民民主党の小沢一郎衆院議員が20日、高知県知事選の野党統一候補の応援で高知を訪れた。宿毛市内で報道陣の取材に応じ、「岩手、埼玉県知事選で野党が勝った。安倍内閣は瀕死(ひんし)の状態、高知でも良い結果を出したい」と強調した。

小沢氏は、知事選で勝つには保守層を含めた幅広い支持の獲得が重要だと指摘。野党統一候補が共産党籍を持つことに関し「県民に若干の抵抗はあるだろうが(候補者が)ビジョンを示して乗り越えてほしい」と述べた。

また、年明けに衆院解散があり得るとの認識を示した上で、「今年中に野党がまとまり、自民党に代わる受け皿を見せる必要がある。一つの党にまとまれば絶対勝てる」と強調した。

この日で在職日数が最長となった安倍晋三首相を「内政、外交とも何も結果を出せていない」と批判。「桜を見る会」の問題に関しても「権力の私物化だ。程度が悪いし、幼稚すぎる」とした。

(大山泰志)

高知新聞 2019. 11. 20 08:33

2019高知県知事選【来援支援】岡田元副総理「知事選で政権ノーを」

岡田克也元副総理が19日、高知県知事選の野党統一候補の応援で高知を訪れた。長岡郡本山町で開かれた演説会で「(安倍晋三首相の) 信任投票の意味もある。良い結果を出して国の政治の流れも大きく変えよう」と呼び掛けた。

岡田氏は、安倍首相が公費で主催する「桜を見る会」に多くの地元後援会員を招いたことを「公私混同だ」と批判し、「税金で選挙活動をやっている。そんな恥ずかしいことは絶対やっちゃいけない」と述べた。

知事選については、「共産党アレルギーがある人もいるかもしれないが、それを超えないといけない」として野党共闘の重要性を強調。「相手候補は久しぶりに高知に戻って来た人だ」と指摘し、「地方の生活の現実が分かった人がリーダーにならないといけない」と呼び掛けた。

岡田氏は演説後の取材に「桜を見る会の問題は(長期政権の) おごりだ。知事選を機に安倍政権にしっかりノーを突きつける」と述べた。(大山泰志)

しんぶん赤旗 2019年11月21日(木)

「政治の流れ変えよう」 岡田元副総理が応援演説 24日投票の高知知事選



(写真) 声援に応える(左から)

鈴木、岡田、松本、屋良、広田の各氏=19日、高知県本山町24日投票の高知県知事選で、猛追している野党統一の松本けんじ候補の勝利を勝ち取ろうと、元副総理の岡田克也衆院議員らが19日夜、本山町で開かれた個人演説会で支援を訴えました。満席となった会場は、参加者の熱気に包まれました。

国民民主党の屋良朝博衆院議員、選対本部長の広田一衆院議員も訴え。教育研究者で土佐町議(無所属)の鈴木大裕氏が司会を務めました。

岡田氏は、高知で生活し、県民の生活をよく知る松本候補と、三十数年ぶりに高知に戻ってきた相手候補とのたたかみだと指摘。地方の生活の厳しさに触れ、「地方の生活の現実がわかった人がリーダーにならなければ変えられない。それは松本さんしかない」と強調し、「いい結果を出し、日本の政治の流れも変えていこう」と呼びかけました。

屋良氏は、沖縄・辺野古への米軍新基地建設について『安全保障』の議論がない。資料を求めても出てこない。これは民主主義の根幹だ」と指摘。「一つひとつの選挙で勝ち、日本の民主主義を定着させていくことが大事だ」と訴えました。

地元代表の応援演説で、嶺北高校3年は「県版学力テストをなくし、生徒と触れ合える時間をつくってほしい」と語り、本山保育所保護者会の田岡優会長(44)は、米軍機の低空飛行や騒音、墜落の不安に子どもたちがおびえているとして「低空飛行は即刻中止を。松本さんに頑張ってもらいたい」と話しました。

松本候補は「政治を変えるのは一人ひとりの県民です。地域の課題を解決する力も、そこに生きる人の中にこそある。『国言いなりでなく、高知のことは高知で決める』県政、『だれ一人取り残さない』県政をつくらう」と訴えました。

高知新聞 2019. 11. 20 08:33

2019高知県知事選【来援支援】自民・下村氏「桜を見る会」影響懸念

自民党の下村博文選対委員長が19日、県知事選で与党が推薦する候補の選挙対策会議に出席するため来高。取材に対し、安倍

晋三首相主催の「桜を見る会」問題に触れ、「知事選にマイナス影響になる可能性が非常に高い」と危機感を示した。

下村氏は「知事選は基本的に国政とは全く関係ない。尾崎県政を継承するかどうかという選挙だ」とした上で、「国政に絡めて野党は党首レベルが（高知に）入ってきている。国政のマイナス要因が影響しないような対応をしていく必要がある」と述べた。

また、「浜田候補は大丈夫だろうと安心している人が多いという情報があり、十二分に危機感が浸透していない」と懸念。期日前投票の呼び掛けなど投票率アップの重要性を強調した。

高知市内で開かれた選対会議は、非公開で行われ、自民党支部や推薦団体の役員ら約120人が出席。尾崎正直知事らが浜田氏の支持拡大を訴えた。（大野泰士）

高知新聞 2019. 11. 20 08:42

2019高知県知事選 高知県の「現在地」県政課題ポイント解説(6)



不登校児童生徒数	学校に係る状況										生涯に係る状況	その他
	不登校児童生徒数	いじめ	関係を除く友人	いじめを除く友人	関係を除く友人	学業不振	進路に係る不安	進路に係る不安	クラブ活動	学校生活		
小学校	196	3	53	18	34	4	1	7	5	115	29	
中学校	659	10	236	23	215	66	33	28	45	288	97	
小中学校合計	855	13	291	41	249	70	34	35	50	403	126	

※ 県教委が公表をやめたため、2017年度の結果、複数回答可

【不登校】特効薬なく模索続く

高知県の子どもの不登校の増加が止まらない。2018年度の小中学校の不登校（1年間に30日以上欠席）は1059人。千人当たりの人数20・9人は全国で2番目に多い。

不登校の増加は全国的な傾向で、平成のはじめごろに7万人前後だったのが、2018年度は倍以上の16万人超となっている。

高知県教育委員会によると「不登校は悪いことではなく選択肢の一つ」という考え方が広がってきたことが背景の一つにある。県内の学校でも、嫌がる子どもを無理に学校に連れ出すといった指導はしていないという。

不登校の要因は多岐にわたる。友人関係の悩み、学業不振、家庭の養育環境、人との交流が苦手といった個人の特性…。これらが絡み合っているため、本人や保護者もはっきりと理由が分からないことが多い。「不登校に特効薬はない」と言われるゆえんだ。

高知県教育委員会は「不登校を全国平均まで改善する」ことを目標に掲げ、個々の状況に応じて組織的に支援してきた。臨床心理士や社会福祉士など専門家の配置率は全国トップクラス。スクールカウンセラーは公立学校の全てに配置している。

一方で、不登校を経験した子を持つ保護者からは「不登校になった後の対応が目立つ。まずは学校が子どもにとって良い環境なのかを見直してほしい」との声が上がる。

つまりは「明日も行きたくなる学校」をつくること。そのためには、子どもの様子を一番そばで見ている教員が力を付けること

が必要だ。

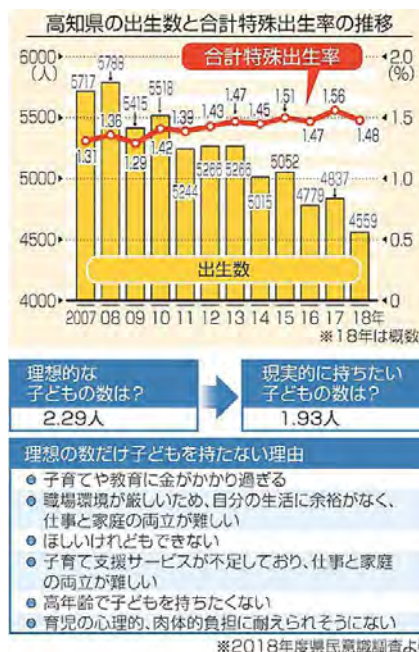
学校に息苦しさはないか。子どもが発するSOSに気付いているか。兆しをみすみす見逃して学校が不登校にしてしまった例はないか。全ての教員に高い感度と人間性が求められており、教員自身の余裕やゆとりも重要になっている。

今、教員は忙しすぎる。事務作業に追われるほか、保護者対応、しつけまで学校に任される現状がある。学力向上に過度なプレッシャーを感じる教員もいる。そこに働き方改革の波が押し寄せている。

教員が子どもと向き合う時間をつくるには、行政の取り組みだけでなく、学校運営に対する家庭や地域の協力も欠かせない。（報道部・石丸静香）

高知新聞 2019. 11. 19 08:36

2019高知県知事選 高知県の「現在地」県政課題ポイント解説(5)



【少子化】産み育てられる環境を

4559人。2018年、産声を上げた高知県の赤ちゃんの数だ。出生数は1980年代に1万人を割り込み、2016年にはついに5千人を切った。

一方で、女性1人が生涯に産む子どもの推定人数を示す「合計特殊出生率」は、2009年の1・29を底に緩やかな回復傾向にある。2018年は全国平均を上回る1・48だった。

高知県は少子化対策として、出会いのきっかけイベントなどの婚活支援をはじめ、子育て支援、企業の育休取得推進などに力を入れてきた。合計特殊出生率の回復について、少子対策課の担当者は「ライフステージごとの施策に加えて、雇用創出や移住の取り組みが総合的に効果を上げてきたのでは」と分析する。

ただ、長く続く少子化で子どもを産む20代、30代の女性人口は減り続けている。合計特殊出生率が上昇しても、「出生数が急激に増加することは当面難しい」という。

「子どもはもっと欲しいけれど…」。県が昨年度行った意識調査からは、出産を諦める姿も浮かび上がる。「持たたい子どもの人数」を問う質問では、理想とする人数の平均が2・29人だっ

たのに対し、現実的に考えて予定する人数は1・93人に下がった。

「子育てや教育にお金がかかり過ぎる」「職場環境が厳しく、仕事と家庭の両立が難しい」。理想と現実を隔てる理由には金銭面や働き方の問題に加え、「育児の心理的、肉体的負担に耐えられそうにない」という育児不安も上がる。

県は、妊娠期から子育て期の家庭を切れ目なく支援する「高知版ネウボラ」を構築中で、相談や連携の窓口となる「子育て世代包括支援センター」は19市町村に設置された。センターを全市町村に広げ、全ての妊産婦と乳幼児、その家族とつながり、必要な支援に取り組む考えだ。

「子どもを産まない方が問題」「3人以上産んで」…。少子化を巡っては女性に責任を転嫁するような政治家の発言がたびたび問題になるが、子どもを希望する人が安心して産み、孤立せずに育てられる環境づくりが対策の大前提だ。特効薬がないからこそ、個人の選択を尊重した地道な取り組みが求められている。(報道部・門田朋三)

高知新聞 2019. 11. 19 08:35

2019高知県知事選 「実感」県知事選投票を前に(2)農家



クリの木を植える浜田好

清さん (四万十町影野)

「施策 到底追い付かん」

「田舎の農業はもう守れなくなってきゆう」

後継ぎがおらず放置されたままになっていた畑にクリの苗木を植えながら、浜田好清さん(68)がつぶやく。かつては水田だったが、何年も前からコメは作られてない。高知県高岡郡四万十町の影野小学校近くの平地。周りには同じような耕作放棄地がいくつも見える。

農家の高齢化と後継者不足は、県内の他の中山間と同じように深刻。小規模農家が集まって生産効率を高める集落営農を進めてきたが、それもままならない現実がある。

浜田さんらは2017年、影野小学校区内の四つの集落営農の連携を目的に一般社団法人「四万十農産」を立ち上げた。後継ぎがいなかったり、立地条件や栽培環境が悪かったりする農地の管理を次々と託されている。

知事選のまっただ中、農村の姿は県に届いているんでしょうか？

少し考えてから、「県は頑張ってくれゆうと思う」。法人立ち上げの際や、細切れの棚田を平らにする整備事業など、県や国の補助に助けられた事例がすらすら出てくる。ただ、その言葉の流れのままに「農家の感覚と、県の感覚にはずれがある」との言葉が漏れる。

例えば「四万十農産」。法人化までの手厚いサポートが、立ち

上げ後は継続されていない。「本当にしんどいのは今。経営が安定するまで支援が欲しい」と漏らす。「確かに県は中山間農業の維持に力を入れちゅうけど、田舎の荒廃は年々加速しゆう。県の施策では到底追い付かん。危機感持ちちゅうがやろうか」

同じ四万十町内に現代農業の別の姿がある。影野小学校から車で10分ほど行くと、軒の高い園芸施設群が見えてくる。昔ながらのビニールハウスの風景を想像するのは間違いで、ちょっとした建造物といったところだ。ハウスの中の温度や湿度、二酸化炭素濃度がコンピューター管理されている。

県が農業振興策の柱の一つに据える次世代型と呼ばれる園芸施設。事業主体の一つ「四万十みはら菜園」の東直雄社長(53)は「高知の農業を引っ張りゆうって責任感がある」と自負をのぞかせる。

しかし、「次世代型」も、先行きが楽観できるわけではない。

「最新の技術があっても、自然を相手にする仕事。近年の異常気象は機械でどうにかできる話やない」。そして販売力。「莫大(ばくだい)な費用がかかるき、明確な経営ビジョンがないと到底建てんってことよ。それに『次世代』言うても、5年、10年したら全国で当たり前になる。欧州では野菜があふれて価格が暴落しゆう。高知県も未来をどう見据えるかよね」

香南市夜須町のフルーツトマト農家、安岡明彦さん(67)も販売が大事だと言う。県が進める「地産外商」を評価し、「県が農産物を熱心にPRしてくれて、農業も日の目をみるようになった」。ただ、個人農家への支援の比重が大きいと感じている。「質と量でブランドを長年けん引しゆう農協の部会も、県と自治体、農協が一緒になって支えてほしい」(竹内将史)